

【緊急声明】 西田昌司参議院議員の暴言に抗議し、即時撤回・謝罪を求めます。

京都出身の西田昌司参議院議員が沖縄で、憲法記念日に行われたシンポジウムにおいて、糸満市のひめゆりの塔の展示内容について、「あの展示を見ていると、要するに日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり隊が死ぬことになっちゃったと。そして、アメリカが入ってきて、沖縄が解放されたと」「亡くなった方々は救われませんよ、本当に。だから、歴史を書き換えられると、こういうことになっちゃうわけですね」「沖縄の場合には、地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしてますよね」「自分たちが納得できる歴史を造らないとできないと思います。それをやらないと、日本は独立できないですよ」などと述べ(沖縄タイムス 5 月 4 日報道)、沖縄県知事や地元自民党を含む県議会の厳しい抗議や、ひめゆり平和祈念資料館の「西田氏が述べたような説明は、一切存在しない」という抗議に対し、居直り、発言の撤回を拒否しています。この沖縄県民を愚弄し、国会議員が、戦争の実相に向き合わないという無責任極まりない態度は、とうてい許されないものであり、満身の怒りで抗議するとともに、撤回を求めるものです。

この発言は、沖縄を本土決戦のための「捨て石」とする作戦があったこと、その下で現地の女子学生が、「ひめゆり学徒隊」として動員され、戦闘に巻き込まれたり、手りゅう弾による自決などで、200名をこえる生徒・教師が亡くなったという事実をゆがめ、自らが「納得」できる歴史に書き換えようとする暴論です。沖縄県民の皆さんが大切にされてきたことは、沖縄戦の実相を後世に伝え、二度と同じ道を歩まないようにすることであり、これを、史実をなかったかのようにゆがめ、沖縄の皆さんの積み重ねの努力を踏みにじることは、いのちや戦争被害への冒涇であり、重大な暴挙です。

加えて、今回の発言で「かなりむちゃくちゃな教育」と述べたことは、沖縄のみならず全国で、教え子の命をうばった戦中の教育に対する反省から「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期」する(教育基本法第一条)として、戦後の憲法にもとづく教育がすすめられてきたことに対し、敵意をもって批判するという、あってはならない政治介入です。

私たちは、西田議員が、いますぐ係る発言を撤回し、沖縄県民に謝罪すること、また、自民党および同京都府支部連合会に対し、重大な問題認識にたって毅然と処分をおこなうなど、沖縄県民はもとより、京都府民に対する責任ある態度表明をおこなうことを、強く求めるものです。

2025 年 5 月 8 日

京都地方労働組合総評議会

議長 梶川 憲